

暑中お見舞い申し上げます。

No412

ラベルニュース

東京都ラベル印刷協同組合

☎111-0051 東京都台東区蔵前 4-16-4

令和元年 8 月号

編集:広報・情報システム委員会

TEL(3866)4561 FAX(5821)6443

GP認定工場へのアンケート調査結果

取得のメリットは工場の
環境配慮と従業員の意識の変化

日印産連が387工場対象に実施

日本印刷産業連合会は、グリーンプリンティング工場認定(全印刷部門三八七工場)に対するアンケート調査を昨年実施し、このほどその調査結果をまとめました。

GP認定工場は現在三八七社にのぼり、シール印刷業界は二〇社で、オフセット業界は三〇九社、今回は一四三工場が回答を寄せ、回答率は三七%だった。

アンケートの内容は、①GP工場認定を申請したきっかけ



②GP認定工場を取得したメリット

③社内でのGP認定の認知度

④GP認定工場の対外的アピール方法

⑤その他GPマークの表示方法、GPマークの種類、GP認定工場への要望

アンケート結果を各項目の上位三項目で見ると

①申請したきっかけでは、自主判断が七四・一%、組合・団体等から働きかけが四一・三%、得意先からの要請が一五・四%となっているが、中でも自主判断の理由として挙げているのが、社会的責任を果たすが五〇%と高くなっている。

②取得のメリットでは、

③社内での認知度では、製造部門で一般従業員がGP基準を把握しているが五二・一%、営業部門でGP認定を営業活動に生かされたいが七二%、GPマークの浸透が一八%となっている。

④対外的アピールでは、ホームページに表示しているが七八・三%、名刺にGPマークを印刷しているが六八・三%、会社案内にGP認定記事を表示が六二・%となっている。

⑤その他では、環境関連法規、技術等の情報提供五六・六%、GP制度による環境負荷低減効果の社会への発信が四四・一%、得意先にGPマークの表示提案し採用が三五%となっている。

今回のアンケート結果から学ぶ点としては、

■最近の環境負荷低減の社会的要請から、GP認定工場の基準に基づいたシール・ラベルの生産、管理、販売活動が求められる。世の中がSDGs(持続可能な開発目標)に向かい、良い会社を選ぶ流れが生まれている。

■ISO、エコアクション21と比較して、GP認定工場は、印刷業界に寄り添った基準になっているので取り組みやすい。業界ではISO、エコアクションは減少している。

■環境問題を重く受け止めて取り組んでいる大手の電機メーカー、化粧品会社、製造会社、公共機関等で、GP認定工場が認知されてきている。

今回のアンケート調査結果について、当組合教育経営委員会の清宮和夫委員長は「GP認定はすぐ仕事に結びつかなくても、今後ラ イセンスとして大切になってきます。組合としてGP認定工場申請取得への取組みサポートを行っていますので、この機会に是非GP認定を検討してほしい」と呼びかけています。

組合に是非一度問合せをお願いいたします。

今年度初の支部会を開催 「電力自由化の現状と今後」をテーマに



今年度初の支部会を開催

今年度最初の支部会は、七月四日(木)午後六時より、台東区上野の「大昌園」に於いて開催され、「電力自由化の現状と今後」と題したセミナーが行われました。高橋支部長の司会で初めに講師である(株)Share Energy執行役員の山田洋介氏が紹介され、「電力自由化の現状と今後」電気は、賢く選び、賢く使う！」をテーマに説明を行いました。

この後電力自由化の歴史や電力業界の今、将来の電力業界、主な事業者と特長、電力料金の仕組み、同社の事業についての特徴などについて詳しく説明しました。電気料金が安くなるのは歓迎だが、新電力会社に変更するにはまだ抵抗があるという声が多かったようです。

この後、北島理事長の音頭で全員が乾杯し、活発な意見交換が繰り広げられました。

連合会総会を開催 田中祐会長が留任

全日本シール印刷協同組合連合会は、五月二十九日(水)午後三時より、台東区の上野精養軒に於いて「第六〇回通常総会を開催しました。

総会は第一号議案・二〇一八年度事業報告並びに決算関係書類承認の件、第二号議案・二〇一九年度事業計画、収支予算案並びに経費の賦課及び徴収方法決定の件、第三号議案・二〇一九年度借入金残高最高限度額決定の件、第四号議案・二〇一九年度役員報酬決定の件、第五号議案・任期満了に伴う役員選任に関する件をそれぞれ審議し、いずれも満場一致で可決承認されました。

二〇一九年度自供計画は次の通り(概要)

① 経営環境に関する事業
経営と労働に関する情報収集と周知徹底 中小企業に関する助成制度の情報収集と周知徹底 日印刷連「GP認定制度」の組合員

への周知徹底とともに関連業界及び得意先への周知とPR

② 技術特許に関する事業

シールラベルコンテストの実施と世界ラベルコンテストへのエントリー

シール印刷に関連するデジタル印刷の動向と情報収集とその提供

オンデマンドセミナーもしくは技術伝承セミナーの継続開催

技術優良工場の認定の運用

③ 広報に関する事業
機関紙「全日シールの発行」
ホームページの運用と活用

④ 年次大会の開催と準備

⑤ その他
新役員は次の通り。

■ 会長・田中祐 ■ 副会長・渡辺俊二、池原賢吾、小林淳史、北島憲高、堀木淳一、大河内康史、山田裕彦、湯浅良昌、坂本研一 専務理事・片桐敬喜 ■ 常務理事・渡辺正昭、平山良一、鶴田龍士郎、柴田哲男

関東三協組合同工場見学会が マルウ接着とカミイソ産商 近代化された工場に感激

オフセット印刷のCTP製版機による効率化の様子も見ましたが、今回ひと際目を引いたのは物流管理の工程で、スリッターで小分けにされたロール原紙をロボットアームや無人貨車で搬送されていく様子は、近代化された工場のあるべき姿を見せつけられたようでした。

続いて訪れたカミイソ産商では複数台設置されたシール印刷の工程を見学、印刷機の種類別に工場内は区画整理され、輸転機・間欠輸転機・平圧機が休む間もなく動いている様子に一同目を見張るばかりでした。工場内では女性のオペレーターも多く配置され、従業員がきちんと意思疎通を図れている様子が伺えました。

関東三協組合同企画として六月十四日(金)に、四国工場見学会が開催されました。行程は東京からの日帰りも考慮した都合で岡山駅集合解散となりました。岡山駅よりバスでまず

移動して向かったのはマルウ接着でした。

全国の拠点として稼働する本社工場では、糊引きのコーターはもちろんの事、大きささまざまなスリッターや平版用の断裁機など、多くの機械が稼働していました。



関東三協組合同の工場見学会(マルウ接着前)

ラベルフォーラム

過去最大規模で開催

「ラベルフォーラムジャパン二〇一九」は、七月九日、十日の二日間、東京ドームホテル・プリズムホールで開催されました。

七回目となる今回は「ラベルで未来を変える Labeling the Future」をテーマに掲げて、展示会、コンファレンスなどのイベント

トが実施されました。展示会は今回一〇〇社、一五〇小窓過去最大となり、ラベル印刷機、デジタル印刷機、二次加工省力機、シール・ラベル関連の製品が展示され多くの来場者で賑わいました。

また、コンファレンスも二日間にわたって行われ、全日シール連合会の田中祐会長や、イベントスポンサーのリンテックの西尾弘之社長がそれぞれ挨拶し、二日間で約二十社の担当者が講演とパネルディスカッションを行いました。



■病気不安症とは

病気不安症は、自分は重篤な病気にかかっている、またはかかりつつあると思いつつ、精神障害です。

患者は病気にかかっている、あるいはかかるのではないかと深刻に心配しているため、強い苦痛を感じ、

と診断されます。

治療では、信頼できる支持的な医師との関係構築や、認知行動療法が有用となる場合があります。

病気不安症は成人期初期に発症することが最も多く、男性にも女性にも同程度にみられるようです。

患者はさまざまな身体症状や正常な身体機能（心臓の鼓動の自覚など）を誤解するために、過度に不安を抱きます。

■症状とは

患者は自分が病気である、または病気になりつつあるのではないかという考えに強く取りつかれるために、大きな苦痛を感じ、日常的な役割を果たすことができなくなります。その結果、人間関係や仕事の成績が悪化します。

日常の役割を果たすのが難しくなります。

徹底的な評価によって重篤な病気が否定されたにもかかわらず、患者が重篤な病気にかかっていると心配し続ける場合に、この病気

病気がある場合、患者の不安はその病気の重さとは釣り合いのないものとなります。

自分の体のことを繰り返し調べる人もいます。例えば、繰り返し脈拍を確認して、心臓の拍動が規則的かどうかを確認します。新しい身体感覚を怖がりやすい傾向があります。頻繁に医療を求める人もいる一方、心配が強すぎて医療を求めない人もいます。

病気が人生の中心を占めており、他者との会話がそればかりとなります。かかっているのではないかと考える病気について詳しく調べます。病気について、たとえ他者のものであっても、すぐに不安を覚えます。

患者は家族、友人、医師に繰り返し安心を求めます。主治医が安心させようとすれば、診察や検査の結果は正常であったと伝える（例えば、しばしば自分の症状を真剣に受け止めてくれないと考えます。その後、患者はさらに心配になります。患者の間限のない心配に周りの人がうんざりし、人間関係に支障をきたすこ

■治療は

親身になってくれる医師との支持的な信頼関係が有益であり、特に定期的に受診していると効果が期待できます。症状にあまり改善がみられない場合は、かかりつけ医の治療を継続しながら、精神科医や他の精神医療従事者を紹介してもらい、さらなる評価や治療を受けると有益なことがあります。

抗うつ薬の一種であるセロトニン再取り込み阻害薬による治療が有効になる場合があります。認知行動療法も役立つことがあります。

《参考資料》

<https://www.msmanuals.com/>

No161 健康がいちばん!

自分は重篤な病気だと

思い込む病気不安症とは

日本の年金制度は世界三十四か国中、二十九位に

「メルボルン・グローバル年金指数」で明らかに

ここ最近、老後に二千万円が必要などと、年金問題がクローズアップされていますが、日本の年金制度は、世界的に見てどうなのでしょう。

世界最大級の人事・組織コンサルティング会社マーサーは、二〇一八年度グローバル年金指数ランキング「マーサー・メルボルン・グローバル年金指数」レポートとランキングを発表しました。

それによるとランキング首位はオランダ（総合指数80.3）で、二〇一二年より

六年連続で首位を堅持したデンマークをわずかにポイント差で抜きました。

日本の年金制度のランキングは三十四か国中二十九位と再び下位に留まり総合評価はDとなりましたが、総合指数は二〇一七年の43.5より上がり二〇一八年は48.2と過去最高値となり、改善がみられました。

世界各国で引き続き人口の高齢化への対応が課題と

なっており、各国政府は、年金受給者に対する適正な給付の確保と、財政の持続性を適正にバランスさせるよう苦戦しているとしています。

「マーサー・メルボルン・グローバル年金指数（MMGPI）」は調査開始から今年で一〇年目を迎えますが、今回のランキング結果では、人口高齢化という課題に対し、適切な対応を行っている国とそうでない国が明らかとなったとしています。

調査対象国三十四か国の年金制度を指数化した結果、オランダとデンマーク（総合指数値はそれぞれ80.3と80.2）は、十分な給付を支給する、世界最高水準の「A」ランクの退職給付制度を提供しており、年金制度に対する対応が万全であることが明らかとなりました。

二〇一八年の日本の年金制度の総合指数は48.2（過去最高値）で三十四か国中

(DC)法の改正、並びにiDeCoの普及等によるDC制度の活用が背景にあるとしています。

一方、今年マーサーが発表した、「健康で、豊かに、賢く働く」レポートによると、日本人の八割近くが将来の経済状況に対して不安を抱えている、という結果が出ています。中でも、公

的年金の先行きに対する不安をその理由に挙げた割合が、世界全体の平均の約二倍となっており、公的制度に対する心理的な依存が垣間見えます。先の見えない不透明感の中、どのような人生の設計図を描くのか、明確な指針を多くの人が求めているように思われます。公的年金をはじめとする社会保障制度とともに、超高齢化社会における雇用と、

国・企業・個人がそれぞれ果たすべき役割についての、本質的な議論が進むことが大事で、そしてそのきっかけとして、本グローバル年金指数（MMGPI）がその契機となれば幸いと結んでいます。

CJPシステムソリューションズ（東京都豊島区東池袋二の6の6 ストーキ東池袋3階 ☎〇三・五三九一・七六八九）では、プレミアムパフォーマンスの産業用プリンター「BIXOLON X T五―四〇」と、

産業用プリンター「XT5-40」と モバイルプリンター「SPP-L3000」



三インチモバイルプリンター「BIXOLON SPP-L3000」を発売し好評を博している。

X T五・四〇は、大規模な印字が必要な物流・倉庫ソリューションに適合した四インチ（一一四mm）の産業用ラベルプリンターです。X T五・四〇の特長としては、

① 高速データ処理と最

大 一四 i p s （三五六 m m / s）の高速印字

② 豊富なインターフェース

③ 解像度二〇〇/三〇〇/六〇〇 d p i

④ 初心者でも簡単メンテナンス 工具無しでもプラテンローラー プリントヘッド交換が可能

⑤ 便利なソフトウェアが充実 ドライバー SDK 各種ツール

一方、三インチモバイルプリンター「BIXOLON SPP-L3000」は、

i O S A n d r o i d W i n d o w s に対応したモバイルラベルプリンターです。SPP-L3000の特長としては、

① 印字速度最大五 i p s （一二七 m m / s）

② 豊富なインターフェース

③ 解像度二〇〇 d p i

④ 用紙幅二五〜八〇 m m
⑤ 大容量バッテリー

⑥ I P F 五 四 （オプショ ンプロテクティブケース） 屋外の過酷な環境でも 使用可能

同社はバーコード・2次元シンボル・RFID・バイオメトリクス（生体認識）などの自動認識技術（Auto ID）の応用技術の先進国である米国メーカーの最新技術・国際標準の製品（バーコードプリンター・RFIDプリンター・システム等）を国内のユーザーにいち早く紹介し、同時に国内でのフォロー体制を構築してきた。

また、流通店舗内で運用されているPOSシステム市場をはじめとする各種流通システムで国内の小売店を中心に多くの実績を上げています。

写真は上段右がSPP-L3000、左がSPP-L3000、下段がXT5-40

同社のホームページは

<http://www.cjp-ss.co.jp/>